



World Wide Views in Japan NEWS LETTER 01

■ご挨拶

この度は、World Wide Views in Japan の活動にご支援をいただき、誠にありがとうございます。

今回、デンマーク技術委員会 (Danish Board of Technology) の呼びかけにより、世界 46 の国と地域で、COP15 の交渉に当たる政府関係者に対して世界の市民の声を届けるための市民会議 (WWViews : World Wide Views) が開催されます。日本では、「World Wide Views in Japan 実行委員会」が主体となり、京都議定書採択の地「京都」にて開催します。

昨年来、この会議開催のための資金準備、各方面との連絡調整、デンマークでの打ち合わせなど、作業を進めてまいりましたが、いよいよ、会議の詳細が決まり始める時期になってきました。既に日本での開催に向けたウェブサイト (<http://wwv-japan.net/>)も公開しております。

適宜ウェブサイトでも進捗状況をお伝えしますが、あわせて、今後は月に一度程度、ニュースレターを発行し、皆様に準備状況をお伝えする予定です。今後ともご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

World Wide Views in Japan 実行委員長
小林傳司 (大阪大学)

■これまでの経緯 (2008 年夏～2009 年 5 月)

- 2008 年夏～：インターネットを通じて、情報提供資料および WWViews 実施方法の検討を開始。
- 2009 年 3 月 7 日：幹事国 (日本はアジアの幹事国) において、情報提供資料や手法の妥当性を検証するためのフォーカスグループインタビューを実施。
- 2009 年 3 月 22 日：46 の国と地域で同時にプレスリリース (別添参照)。
- 2009 年 3 月 23～25 日：コペンハーゲンのデンマーク国会において、国会議員で「環境と地域計画」委員会委員長のステン・ガーデ氏が、各国の実施担当者、参加国の大使、国会議員、内外のメディアを招くという形でキックオフセレモニーが開催される。日本からは実行委員長の小林傳司、メイン・ファシリテーターの杉山滋郎が参加。本番の会議の模擬セッションを開催すると同時に、会議手法や情報提供資料、その他 WWViews の運営全般について討議。
- 2009 年 4 月 22 日：アドバイザーボード開催。有識者より今後の進め方に関する意見をいただく。

World Wide Views in Japan NEWS LETTER No.1





■報告1： コペンハーゲンで WWViews 参加国のセミナー開催

2009年3月23日～25日にかけて、デンマーク・コペンハーゲンにて、WWViewsの開始に向けたキックオフセミナーが開催されました。WWViewsに参加予定の46カ国のうち44カ国・53機関から87名が出席し、9月26日の市民会議のための打ち合わせが行われました。日本からは、小林傳司（実行委員長）、杉山滋郎（メイン・ファシリテーター）らが出席しました。

初日には、本プロジェクトを主導するDBT（デンマーク技術委員会）の組織や使命、参加国の紹介の後、気候変動問題に関するレクチャーが行われました。その後、デンマーク国会において、ステン・ガーデ「環境と地域計画」委員会委員長およびボー・リデガード環境問題担当政務次官の挨拶を受けて、本プロジェクトの正式の開始が宣言されました。

セミナー2日目には、9月26日の本番に向けたシミュレーションとして、実際に使用する情報提供資料や、質問の一部を用いて、セミナー参加者自身が実際に模擬会議に参加しました。その後、ファシリテーターの役割や会議運営の実務について活発な討議が行われました。

最終日の25日には、各参加国でメディアにどのように関心をもってもらうか、COP15政府代表団とどのような関係を作るかなどについて、討議が行われ、盛況の後にセミナーは閉会しました。





■報告2：アドバイザリーボード開催

2009年4月22日に World Wide Views in JAPAN のアドバイザリーボードを開催しました。

アドバイザリーボードメンバーである、村上陽一郎氏（東京理科大学大学院 教授/（独）科学技術振興機構社会技術研究開発センター「科学技術と人間」領域 領域総括）、西岡秀三氏（独立行政法人国立環境研究所 特別客員研究員）、榎本晃章氏（東京電力株式会社 顧問）の参加を得て、二時間にわたり活発な議論が繰り広げられました。

参加者からは、「市民からの地球温暖化に対する寄与という点で意義がある。WWViews 自身がアクションリサーチであり、歴史に残ると考える。」「産業界の視点から、科学と市民の関心に興味関心を持っている。科学技術が、市民にどう受け入れられるのか知りたい。」「ボトムアップによる意思決定の試み、また熟議を通して民意を問う新しい手法として、真剣に取り組む価値がある。」という前向きな評価をいただくと同時に、よりよい会議設計のための討議が行われました。

具体的には、「リクルーティングの具体的手順」、「参加動機づけを向上させる方法」、「参加者に議論をして頂く工夫」、「COP15 への反映の仕方」、「各国に許される説明の範囲」、「統一議論フォーマットから導き出されるデータの意義と限界」、「資料提供の媒体、表現や内容、読む時間」、「WWV で用いられる手法の展開可能性」、「参加者の具体的イメージ」などについて、議論が交わされました。

また、アドバイザリーボードのメンバーには、9月26日当日に会場に足を運んでいただくことや、ウェブサイトを通じて、WWViews に関するコメントを発信していただくことなどについて了承を得ました。





■ 今後の広報について

皆様へは、今後月に1回程度、ニュースレターをお送りすることにより、進捗状況をご報告する予定です。

また、「World Wide Views in JAPAN ～日本からのメッセージ：地球温暖化考える～」の公式ウェブサイト (<http://www-japan.net/>) でも適宜進捗を報告しております。

ウェブサイトは、9月26日のイベント開催地・京都にちなんだデザインとし、季節にあわせて彩りも変わっていきます。こちらの方もあわせてご覧いただければ幸いです。

2009年5月13日発行（第二版）

【問い合わせ先】

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（八木）

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16

TEL/06-6850-6631

FAX/06-4865-0121

www-japan@cscd.osaka-u.ac.jp

World Wide Views in Japan NEWS LETTER No.1

